

当館で開催中の『いわてまち石彫展』(4月7日まで)を観ながら(これがなかなかの入った展示で岩手町教育委員会社会教育課はなかなかやるなあ、と感心することしきり)、彫刻のことから文明のことまで幅広く(しかし、浅く)あれこれ考えました。

日本では1万年前の縄文時代の地層から、表面に紋様のある土器が出土していますから、文字や絵画よりずっと前から「立体=彫刻」をつくっていたわけです。

時代がずっと下って、紀元前8世紀頃になっても私たちの祖先はまだ土器をつくっていましたが、同じ頃、ギリシャではリアルな石彫がつくられています。ざっくり言うと、大理石を用いた石彫はその頃にもう完成してしまい、後世の彫刻家たちは何百年もの間、今日に至るまでギリシャ彫刻をお手本にしてきたのです。

日本の古い石彫は街道沿いのお地藏さんなどには見られますが、古い仏像は木彫です。日本に仏教を伝えた中国の仏像は石彫なのに不思議です。いい石がなかったのか、石を掘る技術がなかったのか、もしかすると私たちの祖先は石彫の仏像を「肌に合わない」と感じたのかもしれません。

同じように、まだ土器を使う縄文時代が続いていた頃に中国では金属(青銅)が使われだしましたが、日本にはなかなか伝わってきませんでした。原料や技術の問題もあったと思いますが、それよりも「縄文人らはその必要を感じなかった」のではないかと……などと岩手町の石彫から古代文明論まで思考の飛躍を、束の間、楽しみました。

Ishibi



Ishigami Museum of Art

石神の丘美術館通信 イシビ

2024. 4 Vol.244



ヤエベニシダレ (2023年4月下旬撮影)

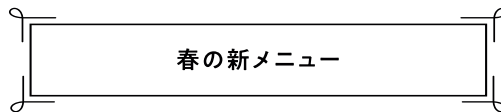
道の駅 石神の丘からのお知らせ

産直 石神の丘 9:00-18:00
TEL 0195-61-1600



新しい出会いの季節 春の乾杯にいかがですか
岩手町ブルーベリーワイン、リンゴワイン(ルルとリリ)

レストラン 石神の丘 10:30-18:00 (L.O.17:30)
TEL 0195-61-1602



若鶏の唐揚げと
三陸産いわしの
フライセット
(ごはん、みそ汁、サラダ付)
980円(税込)

◆いわしフライ単品
350円(税込)

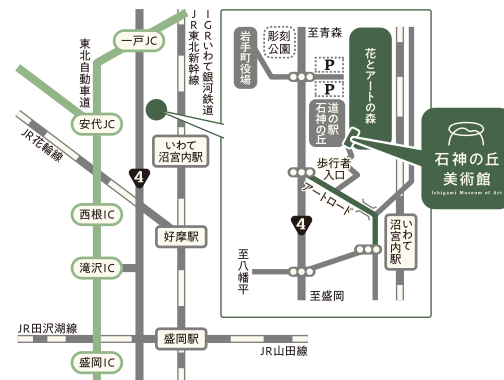
大船渡市で水揚げされた新鮮ないわしを使用。食欲そそる一品です。



石神の丘
美術館

Ishigami Museum of Art

〒028-4307
岩手県岩手郡岩手町大字五日市10-121-21
TEL 0195-62-1453 FAX 0195-62-1477
開館時間 9:00~17:00 (最終入場 16:30)
休館日 月曜日(月曜日が祝日の場合その翌日)
年末年始 (12/29~1/3)



毎年冬にイルミネーションイベントが開催される石神の丘美術館オープンシアターは、春にはお花見が楽しめる場所だをご存知でしたか。敷地内をぐるりと囲むように植えられたヤエベニシダレ(八重紅枝垂)は、その名のとおり濃いピンク色の花をつける八重桜です。

石神の丘には他にもヤマザクラやカンザンなどいくつかの桜の木があり、いずれも例年4月下旬から5月中旬にかけて開花しますが今年はどうなるのでしょうか。お天気の良い暖かい日は、お弁当を持ってお花見に出かけてみませんか。

COLLECTION+ VOL.1

まなざしのあいのり

土地の声を聞く、探る、表す

会 期：2024年 4月20日(土)～6月2日(日)
9:00～17:00 (最終入場16:30)

休 館 日：4/22(月)、5/7(火)、13(月)、20(月)、27(月)

観覧料金：一般 300円／高校生以下無料

※〈花とアートの森〉共通観覧券は一般700円、
高校生以下無料(学生証をご提示ください)

このたび、石神の丘美術館では、当館コレクション(収蔵品)とゲストアーティストの作品をあわせて紹介するシリーズ企画をはじめます。初回となる本展では、当館コレクションより、30点からなる組写真、田村淳一郎《昭和の農村》をとりあげ、ゲストアーティストに増子博子(ますこひろこ／1982年宮城県生まれ、栃木県在住)を迎えます。

増子博子はさまざまな土地に暮らしながら、そこで出会ったもの、その土地に積み重なった事柄をほぐし、そこから得たことを養分とするように作品を制作しています。2020年から2023年にかけては、岩手県葛巻町に暮らし、そこで上高山兼太郎(1926-1988)の木彫り熊と出会い、東北で生まれた木彫り熊の調査・研究の深まりが作品制作へとつながってきました。

上高山兼太郎の出生地、葛巻町冬部地区は、一戸町生まれのアマチュアカメラマン田村淳一郎が若き日に通り、農村の暮らしと子どもたちの姿を捉えた場所のひとつでもあり、今に残る木彫り熊や写真作品は、昭和の一場面をそれぞれの角度から証言するものになっています。

一方で、増子博子が制作する作品には、土地に積み重なったものにそっと根をおろしつつ、時を隔て今、それを受け取る増子自身の思考や感情がたゆたうように広がる様子がみられ、作品は画面内で成長を続けているかのようにもみえます。

「COLLECTION+(コレクションプラス)」と名付けられたシリーズ企画の第1弾。足し算のように、あるいは掛け算のように、作品を通じて昭和の岩手県北の暮らしや文化、それぞれの土地や人に堆積したのを見つめなおす機会となれば幸いです。



田村 淳一郎 組写真《昭和の農村》より
1957-61年頃 葛巻町冬部 石神の丘美術館コレクション



増子 博子 《中州的な人》
2021年 木製パネル、ワトソン紙、インク 112×162.5 cm 作家蔵



上高山 兼太郎 《木彫り熊》
年代不明 木材、墨、ラッカー h 45×93×34 cm 個人蔵

関連イベント

- 増子博子 アーティストトーク + 木彫り熊に触れる、写す
2024年4月28日(日) 13:30～15:00
・参加をご希望の方は美術館ホールにお集まりください(予約不要)
・参加は無料ですが企画ギャラリー観覧券が必要です
・作品についてお話を聞きながら鑑賞後、展示している木彫り熊に触れ、毛並みを写し取る体験をしていただきます
- トークイベント「それぞれのフィールドワーク・土地の歩き方」
2024年5月19日(日) 13:00～15:00
各々のテーマで土地を歩き、探り、表現する方々のお話。
出演／増子 博子(出品作家)、高坂 真(『へのへ』編集人)、
佐藤 嘉宏(野生動物写真家)、岩手大学ツキノワグマ研究会
聞き手／齋藤 桃子(石神の丘美術館 学芸員)
・参加をご希望の方はホールにお集まりください(予約不要)
・座席数に限りがあり、立ち見をお願いする場合があります
・イベント参加は無料です

ガーデンサポーター募集

石神の丘美術館〈花とアートの森〉で、楽しみながらボランティア活動をしてみませんか。ガーデナーと作業しながら学んだ技術は、家のお庭造りにもきっと役立ちますよ。

作業日時：5～11月の毎月第3水曜日 ※初回 5月15日(水)
9時30分美術館ホール集合～12時ごろまで

募集定員：15名(先着順受付)

作業内容：〈花とアートの森〉に設置するプランターの寄せ植えや花苗の移植、ラベンダーやアジサイ等、小低木の手入れなど、季節に応じたガーデン作業を行います。

お申し込み・お問い合わせ：

4月20日(土)9:00から電話または来館窓口で受付します
石神の丘美術館 tel.0195-62-1453 fax.0195-62-1477



昨年度の活動の様子

日本野鳥の会 会員のガイドでまわる

石神の丘 野鳥観察会

開催日時：2024年 5月4日(土・祝) 9:00～ ※小雨決行

所要時間：2時間程度

集合場所：石神の丘美術館 チケットカウンター前

参加費：500円(保険料、ガイド料)

- ※別途〈花とアートの森〉入場料が必要です
- ※年間パスポートをお持ちの方は忘れずにお持ちください
- ※友の会会員の方は会員証をお持ちください

申込定員：20名程度(先着順受付)

お申し込み・お問い合わせ：

4月20日(土)9:00から電話または来館窓口で受付します
石神の丘美術館 tel.0195-62-1453 fax.0195-62-1477



美術館からのお知らせ

- 4月9日(火)～19日(金)、野外エリア〈花とアートの森〉のメンテナンスと企画ギャラリーの展示替えのため全館休館します ※4月8日(月)、15日(月)は通常休館日です
- 4月20日(土)より、野外エリア〈花とアートの森〉は夏期料金で開館します